

海運九条の会ニュース

発行：海運九条の会事務局

和光市本町31-4-102

048-465-5505

iuehara@pep.ne.jp

立憲主義を根底から覆す、 解釈改憲論をいかに阻止するか

ねじれを解消して、決められる政治はいよいよその正体をあらわにして、暴走をはじめています。

衆院300、参院31の一人区がもたらした「虚構の多数」は、「正当に選挙された国会における代表者」（憲法前文）と言えるでしょうか。

当面、明文改憲が難しいとみた安倍首相は、あたかも白紙委任されたかのように解釈改憲へ暴走を始めました。解釈改憲で集团的自衛権の行使を容認することは、立憲主義を根底から覆し、憲法九条をなきものにするに等しいと言わなければなりません。最後のよすがは、「武力による威嚇または武力の行使は、・・永久にこれを放棄する」。「国の交戦権は、これを認めない」（憲法第九条）です。世界の流れ、時代の流れは、「軍事では解決せず」です。軍拡の連鎖を断ち切る知性が望まれます。

海運九条の会の皆さんにおかれましては、日頃カンパなどご協力を賜りまして、誠に有難うございます。この度、上記のごとき、危険な状況を断固阻止すべく、商社九条の会・東京の主催する樋口陽一氏の講演会が、来る5月10日（土）同封リーフのとおり一橋大学一橋講堂にて開催されることになりました。

つきましては、海運九条の会と致しまして、銀行、出版、生保、損保などの職域九条の会の皆さんと共に協賛することに致しました。皆さんお誘いあわせの上、是非ご参加くださるようご案内申し上げます。

入場前売券のお買い求めは、事務局上原若しくは、お知り合いの幹事まで申し出て下さい。歌手の加藤登紀子さんも参加され、講演会を盛り上げて下さることになりましたので、入場券はお早めに確保されるようお願いいたします。



南相馬・浪江町一原発事故被災地は今

昨年11月南相馬市の現状を知るツアーに参加した。福島駅から請戸港→浪江駅→吉沢牧場（希望の牧場）→鈴木安蔵宅跡→小高駅→村上海岸の日帰りコースでした。

毎年1回で3回目の訪問でしたが何も変わっていない

い、というのが実感。

浪江町請戸橋に立つと、一面の草原に点在する家屋や船の間、右手8キロ先に福島第1原発の排気塔が見え、左手に同じような距離



で「浪江・小高原発」の赤白の観測塔が見える。東北電力は1968年に小高区浦尻に原発建設計画を公表した。今回案内役の相馬双葉漁協請戸ホッキ貝会長志賀さんなどの長い反対運動で昨年3月に建設を断念させたもの。福1原発のこんな近くにもう一つの原発建設予定があったとは知らなかった。もしこの原発が

るに余りある。日本中にこうした戦いの歴史がある。そして現在の私たちの“原発ゼロに”の運動の重要性を再認識した。希望の牧場には行けなかったが、原発

マネーで建てられた立派な請戸小学校を見た。生徒は走って逃げ全員助かった。

体育館は卒業式の準備の中に、地震と津波の跡が残されていた。小高駅駐輪場には3月11日帰宅できなかった高校生の自転車が整然と並んでいた。

避難指示解除準備区域に入るには通行許可が必要で、安倍総理が視察に来た9月以降は規制が厳しくなり、京都から来たグループは許可が下りなかったという事もおきている。

地震、津波、原発の三重苦で、3年を経て今が見通しのつかない14万人の避難者、放射能汚染水、人身事故、作業員不足、などなどの現状で、被災地の今を国民の共通認識にして運動していくことが大切だと思った。(M)

稼働していたらと空恐ろしくなる。

最近山口県上関町祝島の一原発をつくらせない人びと（山秋真著）を読んで、その30年の戦いに感動したが、ここ「浪江・小高原発」も45年にも渡る阻止運動の大変さは推測す